



相模湾福浦港出船

撮影◎椎名義徳

深海の至宝ベニアコウ ラストチャンスに 賭ける！

●当口は3〜4キロ級が船中2尾



▼水深950〜1000メートルを狙った



▲大型はギャフを使って抜き上げる



▲船長の合図でミヨシから順番に投入していく



◀ホッカリと海面に浮いた真紅の魚体は感動的



●深海ファンの憧れのターゲットがベニアコウ

▼釣り場の水深は850〜1100メートルなので道糸はPE12号1400メートル以上が必要



ベニアコウの仕掛けとエサ

仕掛けはキンメヤアコウと同様の胴つき式だが幹糸40号、枝ス30号、ハリはムツ25号とひと回り大ぶりになる。エサは各自持参で、スルメイカの切り身をメインにアナゴの半身や小さなイカの1杯掛けが使われる。一日の投入回数は6回、ハリ数は10本までと決まっているためほとんどの人が2組の仕掛けを用意、回収したら掛け枠に巻き直して交互に使っている。



◀仕掛けは2組用意。オモリは鉄筋3キロ



▲付けエサはイカやアナゴが多用される



▶アピールアイテムも効果的で、最近はマシュマロボールも流行っていると

浦港のよしひさ丸。今シーズンは模様がやや遅れ気味で、ここへきて釣果が上向いている。取材日は3〜4キロ級を船中2尾だったが、数日前には船中8尾の釣果が上がっている。シーズンは協定で5月一杯と決まっているので残りあと1カ月。ラストチャンスに期待して深海の至宝を狙ってみよう。(詳細は54ページ参照)

数ある沖釣りターゲットの中で最も深場を攻めるのがベニアコウ。ポイントの水深が1000メートルを超えることはザラで、一日の投入回数も6回程度に限られる。そんな超深場を狙う釣りだから毎回大漁ということは滅多になく、釣ればラッキーとまさにお宝。だからこそ深場釣りファンはこの最深海ターゲットを求めているのである。釣り場は関東沿岸の各地にあるが、相模湾でこの釣りを得意とするのが福

●オモリ底トントンキープしつつ海底をトレースして探っていく



◎相模湾福浦港・よしひさ丸 高橋 稔船長